

聖霊降臨後第7主日（特定11） 説教

「私たちの中に混在する麦と毒麦」

〔旧約聖書続編〕	知恵の書	12:13、16~19
〔使徒書〕	ローマの信徒への手紙	8:18~25
〔福音書〕	マタイによる福音書	13:24~30、36~43

主の平和が皆さんと共にありますように。

「毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。」（マタイによる福音書 29~30）

イエス様が語られたお話のたとえ話は「神の国」のことです。神の国はある特定の場所を示しているのではなく「状態」を示します。では、どういう状態かということ「真の平和」に満ちた状態です。

イエス様は真の平和の完成のために私たちのもとに来られたのです。本日の福音書「毒麦のたとえ」も神の国のたとえ話です。そしてたとえ話によって私たちが真の平和へ招かれ続けていること、そして粘り強い深い神の愛が込められていることを御言葉から受け取りたいと思います。

人間は、善と悪を同時に持っています。そして善悪が複雑にからみあって生きています。表面上は善人のものであってもその内面は必ずしもそうではありません。事件の報道を見るといつもその事が明らかになります。

「人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。」（マタイ 13:25）

ここで言われている「敵」とは人々を惑わす者の存在、悪魔です。悪魔は目で見ることは出来ません。悪魔の思惑は、人々（人間）を「麦」か「毒麦」のどちらかに分別出来るかのように思わせ、互いに足を引っ張り合わせて、共倒れをねらうのが、真の意図です。

現在の私たちの世界、社会はまさにこの意図に満ちている気がしてなりません。間違いを犯してしまった人を見知らぬ人たちが SNS 上で総批判、総攻撃をする。

そういう私も心の中に相手を批判している自分の存在がいつもあります。不平不満も口にしてしまいます。相手の置かれた状況をよく知らないで批判をしてしまうことに反省しています。

「明日は我が身」かもしれないのに本当に愚かなことだと思えます。まさに、悪魔の思惑に引きずり

込まれていく危険性は常にはらんでいます。「人々が眠っている間」(マタイ 13:25) がその事を示しています。人間は必ず眠くなるのです。目を覚まして起きてられないのです。その弱さの中に敵は毒麦を蒔いていきます。そして毒麦は麦と見分けが付きません。つまり、一人の人間の中に麦と毒麦の両方が混在している、また私たちの世界も然りです。複雑に絡み合っているのです。

植物を育てていれば感じるのですが、土の面に出ている部分(つまり目に見える部分)は枯れていたり、虫がついて病気になっていけば分かるのでその部分を抜いたり、剪定することは可能です。しかし、土の中(目に見えない部分)の根っこは複雑にからみあっていて、下手に根を切ろうとすると良い木の根っこも一緒に切ってしまうかもしれません。実際に私も間違っって切ってしまったことがあります。

イエス様は私たちが複雑な感情を併せ持って生きていることをよくご存じのお方です。そして、人間の自由意志、可能性を信頼してくださっています。確かに人間は「毒麦的」部分を持っています。しかし、人間である以上、成長し、変化する可能性も持っていると思います。

そして、その可能性を最後まで信じて下さるのが主イエス様です。それを示されたのが本日の福音書です。私たちは麦なのか毒麦なのかを私たちが知ることが出来るのは神の国が完成したとき、つまりイエス様が再び私たちのもとに来られたときです。

麦か毒麦か仕分けたくなるのが人間の常ですが現在はまだ「育つままに」しておかなければならないし、そもそも私たちにはその権利はないのです。

敵(悪魔)の誘惑に常にさらされ、目を開けてられない(眠ってしまう)私たちを粘り強く見守り  
真の平和(神の国)へと導こうとされているイエス様を見失わないように一人一人の信仰が強められますように。